

## あまのじゃく



石狩医師会  
石狩湾耳鼻科

ま ぐ ち し ろ う  
間 口 四 郎

「思い通りには動かない世の中なんて何もかも、ただどあたしだって世の中の思い通りなんか動かない。」中島みゆきの唄を口ずさみながら、日頃の思いを「あまのじゃく」よろしく斜に眺めて独りごちてみました。

### ○新型コロナ感染症とアビガン

5月8日に5類移行になり、世の中が元の世界に戻つつありほっとしています。最初はハンマー・アンド・ダンスでいくかと思っていたのに、ワクチン接種の予定が入り出してから、中国ほどではないにせよゼロコロナに近いものになっていったように思います。あの初期の頃に、どうして一旦は認可に傾いたアビガンを急遽取りやめにしたのかがいまだに不可解です。ワクチン接種が目前に迫っていたせいなのでしょう。効果が薄かったにしても早い時期で認可していれば、世の中の不安感を落ち着ける意味は十分あっただろうし、効果の検証も迅速にできただろうと思ひ残念です。私自身も昨年感染して、いまだ経験のなかった強い咽頭痛に見舞われましたが、その時、よだれをたらしながら、「ああ、(国産の)アビガンがのみたい」と思っていました。

### ○地球温暖化

どうして地球温暖化を否定的にばかり捉えるのでしょうか。北海道のような寒い土地に住んでいれば、あるいはシベリアならば、暖かくなることはいいことじゃないかと思うのです。過去の歴史を見ても寒冷化で冷害、飢饉、疫病などはたくさん事例があるものの、温暖化で悪くなった例はあまり知りません。日本の歴史を見ても縄文時代、平安時代、奥州藤原氏の頃の東北など、温暖化だった時代は概して生活が安定し平和な世の中だったように思うのです。ちなみに最近の北海道でワイン用ブドウの栽培が容易になってきている要因の一つは温暖化によるものです。それゆえ一方的な温暖化防止運動には距離を置きたくなるのです。

### ○少子高齢化

昔はマルサスの人口論が取り上げられ、世界人口の急激な増加による将来的な食糧危機を防ぐために人口抑制が当然必要とされていました。日本の人口は現在約1億2千万人ですが、平安時代は600万人、江戸時代で約2千万人から3千万人でした。国内だけで食糧を間に合わせるためには日本の人口は3千万人くらいが適当ではないかという話があります。徐々に減って行く趨勢は決して悪いことじゃな

いことに思えるのです。少子化を防ぐよりも、少子化になっても困らない仕組みを作る方に重点を移した方がいいのではないかと考えています。

### ○原子力発電

原発に賛成です。若い頃から大雑把に、食べ物とエネルギーがあればとりあえず安定して暮らしていけると考えていました。食糧が十分な北海道なら、あとは原子力のエネルギーがあれば安心と思っていました。2018年の胆振東部地震の時の停電では不便な生活を強いられました。「泊が動いていればこんなことにはならないのに」と小さな声で呟いていました。事故も起こしていない全国の多くの原発の運転を中止してエネルギー確保に足かせをはめている現状を憂えています。100%の安全を求めれば少しも動けなくなります。理想論よりも現実的対処が必要と思っています。よく分からない活断層、歴史上記録のない津波に対する過剰な主張に私は賛成できません。高々100年も生きられないのに千年、万年単位の事象を杞憂する様を理解できないのです。千年、万年という単位になれば人知の及ばぬ、想像もできない別の災厄に見舞われるのではないかと考えています。手塚治虫も火の鳥の中で人類の終わりは西暦3400年くらいに設定していましたし、ホーキングも高度に発達した文明の寿命は百年から千年くらいと見通していました。過去50年ほどのコンピュータの進歩とそれによる社会の変化のスピードの速さを考えると西暦3400年も迎えることが難しいのではないかと考えています。

### ○厚労省の医療政策、デジタル化と医師会

この半世紀ほどの間に、医者数は倍くらいになり、薬剤師の数は3倍以上に増えています。鳴り物入りで始まった医薬分業ですが、デメリットの方が大きかったと思います。また薬価の引き下げとともに厚労省が熱心に進めたジェネリック医薬品の普及ですが、最近は薬の欠品が相次ぐ事態を招いています。こういう現状の中でさらにマイナンバーカードの保険証化やデジタル処方箋が推進されています。私の周りの医師の多くがこの急速なデジタル化に不安を感じています。もしかしたら年老いた私のような開業の爺医を廃業に追い込もうとする悪巧みではないかと邪推さえしています。でも医師会の上層部は同じ思いを共有していないようです。一般会員との間に考えの乖離が広がっているのではないかと危惧します。提案ですが、次回の医師会長の選出は間接選挙ではなく医師会員全員による直接選挙でやってほしいのですがどうでしょうか。

以上、あまのじゃくの独り言でした。